

令和 5 年度 大阪市立北区大淀老人福祉センター 事業実績報告書

施設概要

施 設 名	大阪市立北区大淀区老人福祉センター 愛称：大淀はつらつセンター
所 在 地	大阪市北区本庄東 1 丁目 2 4 番 1 1 号
施 設 規 模	鉄筋コンクリート造 2 階建のうち 1 階 延床面積 5 0 4, 9 0 m ²
主 な 施 設	大広間、会議室、講習室など
市が設定した数値目標	センター利用者向け実施する満足度調査で、「満足と回答される方」の割合を 85.2%以上とする。(市内 26 館における過去 3 年間の平均) ※感染症拡大を防止する措置のため、延べ利用人数・登録人数は目標としない。
令 和 5 年 度 満 足 度	86.2% (131/152) ※母数を明記すること。

指定管理者

団 体 名	社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会
事 務 所 の 所 在 地	大阪市北区神山町 1 5 番 1 1 号
代 表 者	会長 小玉 始
指 定 期 間	平成 3 1 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日
報 告 対 象 期 間	令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日
担 当 者	北区大淀老人福祉センター 館長 折本篤士
連 絡 先	(0 6) 6 3 7 4 - 0 8 7 3

1 指定管理業務の実施状況(1)施設の運営方針

①高齢者福祉の拠点づくり・孤立防止

- ・高齢者の居場所の維持・充実
- ・孤立傾向にある高齢者の参加を促進

②人材の育成・生きがいづくり

高齢者が健康で生きがいをもって自立した生活が送れるよう支援を実施。

- ・多彩な教養講座、セミナー、行事を通じて生きがい探求の場を提供
- ・サークル活動や同好会などの自主的な活動を支援
- ・高齢者の社会参加を支援するため、おもちゃ病院・スマホ相談会を共催し活動につなげた。

③介護予防や認知症予防の啓発

- ・閉じこもりがちな高齢者にラジオ体操・百歳体操の場を提供した。

(2)建物の維持管理

〔定期的保守点検と法定点検〕

- ・自動ドア保守点検(令和5年6月8日、令和5年10月12日、令和6年2月9日)
- ・消防用設備等総合点検・機器点検(令和5年8月10日、令和6年1月5日)
- ・特定建築物等定期点検(令和5年10月4日)
- ・非常／火災通報装置保守点検(令和5年8月8日)
- ・建築物及び設備総合自主点検の実施(令和5年6月30日、令和5年12月28日)
- ・空調巡視点検(年12回)

〔その他〕

- ・非常照明(2式)の交換(ロビー)

(3)職員の配置状況

施設長 1名、職員 0名・嘱託職員 3名

(4)危機管理・安全管理

- ・消防計画(令和5年7月19日) 北消防署へ提出
- ・自衛消防訓練を実施(第1回:令和5年10月18日、第2回:令和5年12月20日)
第1回訓練では、自主訓練(通報・避難)を実施した。自主消防組織票の確認、火災通報(シミュレーション)訓練、避難経路を確認の上での実地訓練を職員で実施した。
第2回訓練では、センター利用者も参加して、北消防署の指導を受けた。消火器噴霧の実地指導、AEDの取扱いの実地指導を経て災害対策の講話を受講した。
2回の訓練とも、併設施設(子ども・子育てプラザ)職員と合同実施して、お互いの防災意識を高める事ができた。
- ・避難経路の整備(除草及び伐採:令和5年11月24日)
枝葉が敷地外を覆っている、との指摘を利用者アンケートの際に受けて対応。子ども・子育てプラザ職員と一緒に協力して実施した。
- ・防災訓練の実施(令和5年8月27日)
北区社会福祉協議会の全職員で災害ボランティアセンター立上げのシミュレーション訓練を実施した。
- ・感染症への配慮
コロナ対策として、アルコール消毒(机、椅子、ソファ、碁石、将棋駒その他)、手洗い、マスク装着の徹底を継続して実施した。

2 利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延利 用入 数	1,407	1,623	1,659	2,037	1,693	1,861	2,020	1,822	1,672	1,489	1,372	1,558	20,213
登録 者数	202	15	17	6	4	4	4	7	7	9	2	2	279

3 実施事業(1)事業報告**①事業計画 (P)**

ア 毎日又は開催回数の多い事業

- ・ラジオ体操 (毎日／年間 5, 0 0 0 名)
- ・囲碁・将棋 (毎日／年間 2, 6 0 0 名)
- ・バンパー (毎日／年間 1, 0 0 0 名)
- ・百歳体操 (週 4 回／年間 2, 5 0 0 名)

イ 健康関連 講座・セミナー

- ・健康セミナー (年 6 回／年間 1 2 0 名)
- ・食育セミナー (年 4 回／年間 8 0 名)
- ・体調改善運動講座 (月 1 回／年間 2 4 0 名)
- ・健康ストレッチ (月 2 回／年間 3 6 0 名)
- ・脳活性化教室 (月 2 回／3 0 0 名)
- ・薬膳講座 (年 4 回／8 0 名)

ウ ボランティア育成

- ・おもちゃ病院の運営 (月 1 回／年間 3 0 0 名)
- ・スマホ相談会 (年 6 回／年間 5 0 名)

エ 世代間交流 (子ども・子育てプラザとの共催)

- ・(おおよど盆おどり)
- ・クリスマスコンサート (年 1 回／1 0 0 名)
- ・(将棋・バンパー)

オ アウトリーチ

- ・歌広場 (大淀福祉会館) (年 4 回／1 2 0 名)
- ・歌声 (本庄会館) (年 1 回／2 8 名)

カ 公的団体が企画する講座

- ・お口の健康セミナー (年 1 回／2 0 名)
- ・住まいのよろず相談会 (年 1 回／1 0 名)
- ・(結核健診)

②活動内容 (D) (今年度の取組内容)

ア 毎日又は開催回数の多い事業

- ・ラジオ体操 (毎日／年間 5, 4 3 6 名)
- ・囲碁・将棋 (毎日／年間 2, 6 4 5 名)
- ・バンパー (毎日／年間 3 5 0 名)
- ・百歳体操 (週 4 回／年間 2, 2 6 4 名)

イ 健康関連 講座・セミナー

- ・健康セミナー (年 5 回／年間 8 8 名)
- ・食育セミナー (年 3 回／年間 4 9 名)
- ・体調改善運動講座 (月 1 回／年間 2 0 5 名)
- ・健康ストレッチ (月 1 回／年間 1 5 5 名)
- ・脳活性化教室 (月 2 回／年間 2 8 6 名)
- ・薬膳講座 (年 4 回／年間 6 2 名)

ウ ボランティア育成

- ・おもちゃ病院の運営 (月 1 回／年間 2 3 9 名)
- ・スマホ相談会 (年 6 回／年間 6 3 名)

エ 世代間交流 (子ども・子育てプラザとの共催)

- ・おおよど盆おどり (年 1 回／年間 2 0 5 名)
- ・クリスマスコンサート (年 1 回／年間 1 0 8 名)
- ・将棋・バンパー (年 2 回／年間 1 2 名)

オ アウトリーチ

- ・歌広場 (大淀福祉会館) (年 5 回／年間 1 4 4 名)

カ 公的団体が企画する講座

- ・お口の健康セミナー (年 1 回／年間 1 2 名)
- ・住まいのよろず相談会 (年 1 回／年間 3 名)
- ・結核健診 (年 1 回／年間 5 名)

③チェック (C) (成果、課題)

延べ利用者数が 2 万人を突破した。アフターコロナ→事業運営の正常化に戻りつつあることを実感する。以下、成果と課題を記す。

ア 毎日又は開催回数の多い事業

＜成果＞ ラジオ体操は毎日来られる利用者が多く、健康の維持・増進に大きく寄与していると感じる。隣接する保育園児と一緒に体操を行う高齢者の笑顔が印象に残る。
囲碁・将棋と共に、高い数値目標である年間目標人数を達成した。



＜課題＞ 百歳体操は熱心なリピーター利用者が多い人気事業のひとつであるが、年間目標は未達となった。全体的に言えることであるが、新規利用者の参加が課題である。

イ 健康関連 講座・セミナー

＜成果＞ 健康関連事業のメニューの多さは当センターの大きな特徴でもあり、今年度も多様な講座・セミナーを開催できた。特に、薬膳講座は当センター独特の講座であり、利用者満足度も高い。

＜課題＞ 年間目標人数は、残念ながら未達となった。講師の目が行き届く人数で開催して欲しいとの講師側からの要望もあり、やむを得ない面もあった。

ウ ボランティア育成

＜成果＞ おもちゃ病院は親子が揃って来訪する場合が多く、ボランティアへの信頼が厚い。大手新聞社が紹介記事を掲載したこともあり、遠方からの来訪者が一定数いた。スマホ相談会は、高齢者ボランティアが利用者から相談を受ける形式で実施中。年間目標数も達成した。

＜課題＞ おもちゃ病院は修理に時間がかかる場合が多く、時間内にゆっくりと来訪者対応する点で厳しい一面がある。



エ 世代間交流（子ども・子育てプラザとの共催）

＜成果＞ 子ども・子育てプラザが併設されている「地の利」を活かしての事業。
4年ぶりに開催された 盆おどりは、200名を超える参加人数で大盛況であった。子ども子育てプラザの軽運動室を活用しての開催。猛暑対策を行い、利用者の快適性を確保できた。クリスマスコンサートは地元の中学校吹奏楽部の16名の生徒さんの素晴らしい演奏を楽しんだ。将棋やバンパーでは利用者と子ども達の交流活動を行った。

＜課題＞ 集客力の高い盆おどりは利用者満足度は高いが、職員の事前準備に時間や労力がかかる。役割分担の明確化や実施工程の改善が必要。





オ アウトリーチ

＜成果＞ 北ワハハ体操を行いながらテーマ曲を歌ったり、季節毎の名曲を講師が選定して合唱する市内各老人福祉センターで開催中の人気事業の「出前」講座。老人クラブ職員と連携して実施中。年間目標人数を達成。利用者の高い支持率を維持。

カ 公的団体が企画する講座

＜成果＞ 大淀歯科医師会、全日本不動産協会、大阪市保健所とコラボしての企画を実施。健康に関心を持つ一定数の利用者の指示を得た。

＜課題＞ 何れも目標参加人数には届かなかった。

④改善策 (A) (次年度に向けた改善内容)

ア 毎日又は開催回数の多い事業

リピーター参加率が特に多い事業であり、新規利用者の参加も促したい。センター便り、館内告知、館内声掛け等を行いたい。

イ 健康関連 講座・セミナー

1 講座開催あたりの受講者人数を限定するという講師の方が多いため、量より「質」重視、コンテンツ重視で講座内容の充実を講師に働きかけていきたい。

ウ ボランティア育成

スマホ相談会は、ボランティアへの勉強会を北区社会福祉協議会（生活支援G）から行い、ボランティアのモチベーション向上を目指す。

エ 世代間交流（子ども・子育てプラザとの共催）

集客力の高い事業のため、入念な準備が必要。実施工程の改善を併せて行う。

オ アウトリーチ

地域住民の参加希望者が多い点に関し、老人クラブと協力し、地域への声掛けを積極的にを行い、アウトリーチ事業の活性化を目指す。

カ 公的団体が企画する講座

公共施設へのビラ掲示や広報を積極的に実施する。

(2)平等利用の確保

「センターだより」設置場所として、近隣のスーパーマーケット2店への配付・掲示を、10月以降に開始した。利用者拡大策として、事業評価ヒアリング時にアドバイスを受けた内容であり、店舗サイドも地域貢献のためなら、と快諾して頂いた。LINE公式アカウント利用による発信も継続実施中である。また、「地域集会所」や「福祉会館」での出前講座（アウトリーチ）の開催を老人クラブと協力して行うことで、遠方利用者の便宜を確保できた。

(3)利用者サービスの向上策

アンケート調査の実施、目安箱の設置により、要望や苦情を受け止めた。

「老人福祉センター施設運営委員会」や「サークル代表者会議」を定期的を開催して、意見を収集して事業運営に反映できた。具体的には、摩耗している畳（大広間）の交換を行ったこと、敷地外にはみ出した草木の伐採を職員で行ったことが挙げられる。

(4) センターの利用促進策

サービス内容の周知と施設の場所等の周知を行った。

- ・センターだよりの内容をより充実、チラシ・ポスターの工夫
- ・北区広報紙「わがまち北区」にイベント掲載依頼
- ・LINE 公式アカウントを利用したリアル情報発信。
- ・スーパーマーケット（2店舗）でのセンターだよりの配布・掲示（令和5年10月より継続中）

(5) 利用者からの苦情・意見・満足度の把握

利用者向けアンケートを、11月1日～12月7日の期間にて実施した。

有効回答数は152名（男29名、女123名）。登録者数252名の約60%が回答。

当センターの総合満足度（満足・やや満足と回答した人の割合）は、86.2%と目標を達成した。

また、苦情・要望の内容 ⇒ 対応内容（利用者への告知）は次の通り。

- ・館内トイレの改修、完全洋式化 ⇒ 令和6年度大阪市予算にて実施予定
- ・畳（大広間）の改修 ⇒ 令和6年3月22日に交換完了済み
- ・人気講座の申込みがすぐ埋まる ⇒ 電話受付の先着順で公平性を担保しているが、必要に応じて抽選を行った
- ・敷地外にはみ出した草木が見苦しい ⇒ 敷地内の樹木の伐採を職員が行った

4 その他

(1) 地域との連携

- ・子ども子育てプラザと共催の世代間交流事業
- ・北区に所在する行岡医学技術専門学校実習生の臨地実習の場として受入れ
- ・北区大淀地域包括支援センターと連携（ラジオ体操、百歳体操への参加促進）
- ・利用者ボランティアによる「スマホ相談会」に大阪工業大学（北区）学生が交流

(2) 人材育成・ボランティア活動支援等

- ・利用者がセンター施設内の植栽活動（年4回）に職員と共に参加中
- ・センターイベント時に併設する喫茶（カフェ de おおよど）で給茶お手伝いを利用者が実施（年2回）
- ・有償ボランティア活動「まちともサービス」と連携して、活動者の層を拡大し、高齢者が高齢者を支える仕組みを強化。有償ボランティア活動「まちともサービス」の説明会を行った。



(3) 職員研修の実施状況

6月 8日 職員研修「文書実務・会計事務」「包括的な支援体制の構築」

- 8月24日 職員人権研修「子どもの人権」
- 11月29日 職員研修「個人情報保護」
- 2月14日 職員研修「連携・協働」
- 2月15日 職員研修「コンプライアンス」
- 12月20日 消防訓練（北消防署が来訪）
消火器及びAEDの操作方法を学習。実機によるシミュレーション訓練を併せて実施した。（子ども・子育てプラザ職員、利用者も参加）

(3) 個人情報の保護・情報公開について

- ・館の活動により知り得た個人情報については細心の注意を払っている。
- ・大阪市市社協の実施する「コンプライアンス及び個人情報保護」教育に参加すると共に日頃から職員間において個人情報に対する啓発に努めている。
大阪市北区社会福祉協議会個人情報保護規程
大阪市北区社会福祉協議会個人情報保護に関する指針
大阪市北区社会福祉協議会におけるコンピューター情報システム運用管理に関する規程

(4) 職員の労働条件の確保・環境への配慮

- ・労働基準法その他関係法令、社会福祉協議会の常勤嘱託就業規則等に則り職員が勤務しやすい環境に努めた。
- ・法令の遵守 再生紙（節税など）・職員一人一人が環境保全の意識を高め、省エネルギー対策及びリサイクルを促進した取り組みを実施。
- ・大阪市社会福祉協議会・区社会福祉協議会は地域福祉を積極的に推進するにあたり住民主体の理念のもと、担当業務によらず、多様な主体との連携・協働に向け、社協職員として共通の価値観や基本的な考え方を共有するため、職員行動指針を新たに定め、その方針に沿って職員は行動を起こしている。
- ・再生紙を使用した上、極力両面印刷により用紙の節約を図った。
- ・文書作成時、ミスにより片面印刷済用紙の裏面を再利用し用紙の節約を図った。
- ・ペットボトルキャップ回収ボックスを設置し、回収したキャップのリサイクルを通じて、認定 NPO 法人の実施する「世界のこどもたちにワクチンを提供する事業」に協力している。

6 収支決算状況

(単位：円)

収 入 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	業務代行料	大阪市からの業務代行料	17,815,000	17,915,000
	雑収入	参加費収入	35,000	47,900
収入合計 (A)		—	17,850,000	17,962,900
支 出 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	人件費	職員 4 名分	14,100,000	13,249,052
	物件費	事業費、管理費、その他	3,750,000	4,148,161
支出合計 (B)		—	—	17,397,213

収支 (A) - (B)		—	565,687
--------------	--	---	---------

【計画と決算の差額の主な理由】

- ・建物や設備の老朽化などに伴い、維持管理にかかる費用が増大した。

【経費節減のために主に取り組んだこと】

- ・LED 化を進め、光熱費のコスト削減に取り組んだ
- ・コピー及び印刷は再生紙を利用し、出来る限り両面印刷を行い節約に努めた。
- ・印刷を失敗した用紙については、裏紙として利用し用紙の消費を抑えた。
- ・必ず複数業者による比較見積りで、安価に購入できるよう努めた。